

会長挨拶

郡 司 健 (大阪学院大学)

台風18号による記録的な豪雨で、京都府、滋賀県、福井県において全国で初めてとなる「特別警報」が発令された。その被害の大きいところでは激甚災害の指定がなされるほどの大きな被害を各地にもたらした。最近における異常気象の多くは地球温暖化によるものであり、異常状態が恒常化する傾向にある。このような地球温暖化に対する企業・公共団体等の取組と情報開示は本学会にとっても大きな関心事である。

今期も昨年10日（土）～11日（日）には記念すべき第25回全国大会が大阪市立大学で向山敦夫委員長のもとで盛大に開催された。学会設立から四半世紀、設立に携わった先生方への感謝とともに、大いに慶賀すべきことであった。西日本部会は6月16日（土）香川大学で朴恩芝委員長のもと豪雨にもかかわらず多くの参加者によって社会福祉・医療関係・環境問題・組織存続等に関する報告テーマについて活発な議論がなされた。東日本部会は7月6日（土）苫小牧駒澤大学で川島和浩委員長のもと開催された。その際にはウトナイ小湖野生鳥獣保護センターと二酸化炭素回収・留保（CCS）装置の見学会も用意され、自然環境・生態系保護ならびに低炭素化事業の実情と将来を知る良い機会を与えられ、報告者の貴重な報告に加えて大変有意義であった。

もとより本学会は環境問題だけでなくあらゆる社会的事象を対象としており、多様で多面的な研究の広がりや深化が求められている。毎年、全国大会と東西両部会を盛り上げていただいている実行委員会および報告者・参加者の皆様、より良質の研究論文の掲載に細心の注意を払われる編集委員会、さらには様々の側面から学会のより良好な運営と発展に尽力される事務局の方々には、心から厚くお礼を申し上げます。

2013年11月